

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|--------------------|
| 事業所番号 | 3891000048 |
| 法人名 | 株式会社 新風会 |
| 事業所名 | グループホーム 秦皇 |
| 所在地 | 愛媛県伊予市中山町中山丑523番地1 |
| 自己評価作成日 | 平成 21年 7月 28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成21年8月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員は利用者の気持ちを大事に思い、笑顔で接するよう努力しています。
・周りが山に囲まれ、自然に恵まれて落ち着いて生活ができるホームだと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を山に囲まれた自然豊かな環境の中で、利用者は自由にゆったりと過ごしている。玄関や居間は明るく、家庭的な雰囲気づくりがされている。管理者及び職員は、利用者一人ひとりに対して常に笑顔で接しながら日々の暮らしを支えている。食事については一人ひとりの状態に合わせて調理方法を工夫している。ホームは開設2年目であるが、自治会に入り、地域の行事に参加するなど、地域との交流を深めようと努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | | |

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

| | |
|----------|-------------|
| 事業所名 | グループホーム 秦皇 |
| (ユニット名) | ほたる |
| 記入者(管理者) | |
| 氏名 | 岡田 絹子 |
| 評価完了日 | 平成21年 7月28日 |

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|--|-------------------------------|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価) 全体の理念は出来ていてフロア内に掲示している。スタッフ間で独自の理念を考え作り掲示している。地域密着サービスの意義を踏まえた理念は作っていない。</p> <p>(外部評価) 開設当初に全職員で話し合っってホーム独自の理念を作り、掲示している。管理者及び職員は理念を共有し、利用者の日々の暮らしを支えているが、地域密着型サービスの理念としての話し合いは行っていない。</p> | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価) 日常的には出来ていないが買い物、散歩などに行き交流する努力をしている。</p> <p>(外部評価) ホームは自治会に入り、地域の行事に参加している。また、中学生の総合学習等も受け入れている。まだ開設2年目で地域との交流が多いとまでは言えず、地域の一員としての活動や役割は担っていない。</p> | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価) 不十分ではあるが中学生の総合学習の受け入れをしている。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | (自己評価) 避難訓練の方法などそこで出た意見をサービス向上に生かしている | |
| | | | (外部評価) 会議は利用者や家族、地域住民、市職員等の参加を得て開催している。ホームから行事等の報告を行い、地域の情報を得たり、意見交換等を行い、出された意見はサービスの向上につなげている。参加する人が固定されており、参加人数もやや少ない。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | (自己評価) ケア会議等に参加して情報交換している。 | |
| | | | (外部評価) 生活保護のことを相談したり、ケア会議等の情報を提供してもらっている。介護相談員の受け入れについても市に相談している。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) 取り組んでいる。しかし、例外的に脳内出血の悪化を防ぎたいという家族の方の要望で車椅子等の拘束をしている利用者もいる。 | |
| | | | (外部評価) 職員は身体拘束について十分理解した上で拘束をしないケアの実践に努めている。病状悪化を防ぐため転倒してはいけない利用者に対して、家族の要望で車いす使用時にベルトをつけている方がいるが、不安が見られる場合には直ぐにさりげなく外すなど、やむをえない場合も適切に対応している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 全職員が注意を払い防止に努めている。虐待の法律について学ぶ機会が少ないが日々職員間で話している。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 研修に行ったりして学ぶ機会は持っている。スタッフ間資料を共有している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 家族の方に不安がないよう十分に説明し、理解してもらえよう努力している。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 外部者へ表せる機会は設けていないが利用者、家族の方の意見を取り入れ運営に反映させている。 (外部評価) 運営推進会議等で利用者や家族から意見を出してもらっている。また、日々の生活の中で利用者から聞いたり、家族の訪問時にも話を聞いて、出された意見等は職員で話し合い、運営に反映させている。運営規程及び重要事項説明書にホーム及び外部の苦情相談窓口を明記している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-----------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 日々の勤務時を含めスタッフの意見に耳を傾け反映させている。二ヶ月に一回のホーム長会議の開催。カンファレンスを月一回行っている。 (外部評価) 管理者は日頃から職員に意見を聞いたり、職員が気軽に意見を言えるように心がけている。また、会議等でも要望や意見を聞き、出された意見は運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 職員個々の努力など勤務状況を把握するよう努力はしている。しかし、更なる職場環境条件の整備に努力が必要と思われる。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 事業所内で勉強会・研修を開いている。また、外部への研修にも参加している。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) 見学等を受け入れ、またこちらからも他施設を訪問しネットワーク作りを行い、話をする中で質の向上に取り組んでいる。 | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 本人の過去現在これからの希望、不安などを聞き、理解するよう努力している。また、内的感情にまで迫るように傾聴している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|---|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 家族の方からも事前調査及びホーム見学などの時、よく聞く機会を作り受け止める努力をしている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) 本人が家族と会話している時の様子や本人、家族の話の中で関係性を感じ取るよう努力し良い関係が築けるよう支援している。他のサービス利用も含めた対応にまでは至っていない。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) 利用者の今までの経験を尊重し出来る事はしていただき、一緒に作業したり生活の中で本人が学んだりして支えあう信頼関係を築いている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 家族の方に面会時、電話などで近況報告している。一緒に本人を支えていく関係を築くよう努力している。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) 全員ではないが努力している。なじみの人や場所があり、本人が行きたいと希望する場合、同行訪問している。 (外部評価) 利用者の中には、ホーム周辺の出身者以外の方もおり、馴染みの人が訪ねて来ることは少ないが、行きたい場所がある場合等は個別に対応している。 | 地域の中で暮らしていくためには地域との交流を深めていくことが大切であり、ホーム周辺の地域で馴染みの関係を新たに構築できるような関係づくりに取り組むことにも期待したい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|---|-------------------------------|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 利用者同士の関係は把握している。そのため、その都度関係性を大事にし接している。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 継続的な関わりを必要とする利用者家族の方は現在おられない。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 本人の意向は会話の中において、暮らし方の希望・意向の把握、また今までの生活歴を知る事でその人らしい生活になるよう努力している。困難な場合は日頃の言葉・様子から検討している。家族との十分な話し合いもしている。 (外部評価) 日々生活を通じて本人に思いや希望を聞いたり、その日の表情や行動等からも把握するよう努めている。家族の訪問時には職員から声をかけ、希望や要望などを聞いて情報を得るようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 馴染みの物または家族の写真などを生活の場に置き、馴染みの暮らしになるよう努力している。これまでのサービス利用は一人ひとりの情報をファイルにして本人を把握できるようにしている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 暮らしの現状はわかっているが本当にその方が望んでいる暮らしなのか理解はしていない。心身の変化は顔色を見たり話し合ったりして気をつけている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価) 月一回職員全員でケアカンファレンスを行い、本人家族の希望などを話し合い利用者本位の計画となるよう努力している。また、職員同士利用者が日々の生活の中で変化があったときはその都度話し合って計画に反映させている。 | |
| | | | (外部評価) 本人や家族の希望及び担当職員の意見を聞いて話し合い、本人に合った具体的な介護計画を作成している。月に1回ケア会議で一人ひとりの計画について話し合い、評価も行っている。また、状態の変化に応じてその都度話し合い、新たな介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) 日々の生活を書いた介護日誌を個別に記入している。月一回のケアプランの見直しをし、現状にあったプランを作成している。情報を共有し実践に生かしている。 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | (自己評価) 家族の同意の下に職員が受診等の支援を行っている。 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | (自己評価) 全員ではないが民生委員さんによるお祭りなどに誘っていただき参加している。また、街の美容院にも行っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|---|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | (自己評価) 主治医が月二回往診に来てくれている。緊急時の対応 も出来るようになってきている。本人家族の了解の下、専 門医の受診も出来る。 (外部評価) 利用者のかかりつけ医は協力医療機関となっており、 月2回の往診があり、検査等が必要な時には職員が受 診に付き添っている。緊急時は24時間対応可能な体 制がある。その他の専門科等についても職員が受診に 同行し、常に利用者の健康状態を適切に把握してい る。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している | (自己評価) 毎日主治医の診療所から状態確認の電話が入る。状態 の相談など出来る。看護職員が週一回訪問し健康管 理・相談などの支援をしている。 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価) 連携をとっている。 | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価) 重度化や看取りに対しては家族の意思を尊重し、家 族、職員、医師が話し合いをしている。特に看取りに 関しては家族の全面的な協力が必要であると思われ るため、話し合いをしている。 (外部評価) 入居時に、重度化や終末期におけるケアについて本人 及び家族に説明を行っている。まだホームでの看取り の経験はないが、本人や家族が希望し、ホームの看取 りが可能であれば、協力医療機関、家族、職員等が チームで対応する方針である。 | 医療との連携により家族や職員等がチームで支援する ために、早期からの話し合いや方針の統一が望まれ る。また、他の利用者への影響も含めた職員の終末期 のケアについての教育も望みたい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|--|--|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 定期的な初期対応の訓練を受けていないが、常に緊急時に対応できるよう個々の段階で話し合いをもっている。夜勤帯の時の緊急連絡網を作っている。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) まだ一度も実践的な訓練を行っていない。昼夜を通しての避難対策を話し合うにとどまっている。 (外部評価) 開設2年目であるがまだ避難訓練等は行っていない。消防署が近くにあり、ホーム内部は確認してもらっており、今秋には消防署の協力を得た訓練を行う予定である。近隣の住民には協力をお願いしており、緊急時の連絡網も作成しているが、防災マニュアルはまだ作成されていない。 | 夜間想定も含めた避難・防災訓練を、地域の協力を得て定期的に行うことが望まれる。また、実際に応じた詳細な防災マニュアルの作成も期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 言葉かけや対応に注意しその方を尊重した声かけをしている。尊敬の念を持ち、対応している。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。トイレや歯磨きの誘導等も一人ひとりに合わせて支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 本人の思いや希望を出来るだけ表せるようにし自己決定できるよう場面作り声かけをしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 職員の都合を優先している部分もある。本人の希望に沿って支援していくよう努力はしている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 理・美容は出張美容師に来ていただいている。通いながれた美容室にも行けるよう支援している。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 食事の下ごしらえをしていただいている。一人ひとりの好みや食べる力を配慮し食事を楽しむ事ができるよう支援している。ミキサー食の提供もしている。 (外部評価) できる方にはお願いして一緒に手伝ってもらっている。食事もそれぞれの利用者に合わせて調理方法も工夫している。介助を必要とする利用者が多く、職員はそれぞれ利用者の食事介助を終えてから食事をする事が多いが、楽しく会話をしながらの食事に努めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 一人ひとりの水分量、食事量のチェックをしている。水分量、食事量が確保できるよう努力している。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 一部の人を除き口腔ケアは出来ている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) 身体レベルの低下によりトイレでの排泄からオムツ使用になられた方が以前より多くなった。 | |
| | | | (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、昼間はトイレで排泄できるよう個別に支援している。夜間はそれぞれ個人に合わせた排泄介助を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 水分摂取など飲食物の工夫で定期的な排泄が出来るようチェック表などを利用し努力している。 | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 個々の希望に応じた入浴がなかなか出来ていない。清潔を保つように超えかけなどで入浴してもらえるよう努力している。 | |
| | | | (外部評価) 入浴を自分から希望する人が少なく、職員から声かけをすることが多い。入りたがらない人もいるが、一人ひとりの入浴パターンや希望を把握して、声かけや対応を工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) 安心して休息が出来るよう支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|--|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) お薬の処方箋をファイルし職員が副作用、用量を理解できるようにしている。服薬の確認などチェック表に記入している。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 全員ではないが役割、楽しみごとの支援をしている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 日常的な外出支援は出来ていない。時に希望を聞き戸外に出られる支援が出来るときもある。 (外部評価) 開設当初は積極的に行事を計画して全員で外出を行っていたが、車いす利用の方が多くなり、外出する機会が減っている。近くの店への買い物等の希望には個別に支援している。 | 利用者にとって戸外に出かけることはストレス発散や気分転換にもつながるため、玄関を出て外気に触れたり、短時間の散歩等を日常的に行う等の工夫を期待したい。また、地域とのつきあいが広がることにより外出機会が増えることも期待したい。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 職員は本人がお金を持つ事の大切さは理解しているが使うことが困難な方が多い為、職員が管理している。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 電話や手紙の支援は出来ている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 教養の空間に季節の花などを飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。光などは遮光カーテンで調整している。室温は空調にて行っている。 | |
| | | | (外部評価) 居間は明るく、畳のスペースもあり、家具やソファは利用者が過ごしやすいうように工夫して配置され、思い思いの場所でゆったりと過ごせるようになっている。職員が台所にいても居間全体を見渡せるようになっており、常に利用者を見守ることができている。玄関や居間には季節を感じる花や飾り付けがある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | (自己評価) 利用者同士の思いを把握し気持ちよく過ごせるよう工夫している。 | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 写真などを飾ったり、使い慣れた毛布などを使われたりと本人が居心地良く過ごせるよう努力している。 | |
| | | | (外部評価) 居室ドアの内側にカーテンが掛かっており、ドアを開けていても部屋の中が見えないよう配慮している。部屋の中は整理されており、それぞれ家庭より使い慣れた家具や好みの物が持ち込まれ、写真等の飾り付けも本人に合わせてその人らしい部屋となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | (自己評価) 建物内はバリアフリーとなっている。廊下・トイレには手すりが付いている。タンスに地震時の為ツッパリ棒を付けている。 | |